

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム サン ひまわり
(ユニット名)	虹 (1階)
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市下伊敷1丁目44番11号
記入者名 (管理者)	管理者 斉野カツ子
記入日	平成 21 年 6 月 1 日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の「知・恩・報・徳」の理念のもと、グループホーム サン ひまわり独自の理念「ぬくもり・あんしん・確かなおもてなし」を掲げ、地域の中で家庭的な生活ができるように努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や分科会などで理念を復唱し、安心して日々過ごしていただける様に一人ひとりが取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関の掲示板に運営理念を掲示してあり、家族や来客の目に留まるように掲示してある。又、年に3～4回サンひまわり通信を発行し情報提供に努めている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	無断外出や毎月の防災訓練を含め地域の協力が必要であり、買物や散歩の途中など近隣の方々と挨拶を交わし会話している。又、玄関は開放し気軽に立ち寄っていただけるように声かけしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	玉江小学校の運動会応援や町内会の一員としておはら祭りに参加、公民館活動や地域の六月灯などに参加している。又、地域の文化祭には作品を出品し地域との交流に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々が気軽に相談できるように相談窓口を設置し担当者が速やかに対応出来る様にしている。地域の代表が参加される地域推進会議を利用し感染対策などの助言を行っている。地域包括センター主催の伊敷地区グループホームケア会議に出席し情報収集を行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、自己評価には職員全員で取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し外部評価結果や入居者の現状報告（事故報告、ひやりハットを含む）を行い、地域の代表者、家族などの参加者からの意見や助言を受け改善につなげている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議録やサンひまわり通信を作成し現状や取り組みを伝えたり、諸手続きなど入居者と共に窓口に行く機会を多くつくりアピールし情報などを得るように取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の資料を基に勉強会を開催している。現在必要な利用者はいないが必要な場合は活用できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会やGH勉強会を実施、褥瘡や長時間の車椅子使用、言葉使い、無視なども虐待にあたることを認識し一人ひとりが取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書により説明し、特に利用料金、医療連携体制、看取りについては詳しく説明し同意を得ている。又、利用者や家族の不安なども聞き、本人家族の要望に沿ってケアできるように努力している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、気軽に相談できる雰囲気づくりをしている。又、利用者の言葉や態度から何を訴えようとしているか職員間で話し合い本人の要望に沿えるように努力している。又、市の介護相談員が来訪し利用者へ直接意見や要望を聞いている。実行できる要望は対応している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	行事などの写真を同封し毎月状況報告を行い、面会時にも状況報告し要望などを聞くように努めている。金銭管理は本人ができない利用者については預かり、出納帳と領収書で確認してもらい確認の印鑑やサインを頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族及び外部からの意見を聞けるように玄関入口に苦情相談のポスターを貼り「ご意見箱」を設置し利用者のサービスに生かせるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	分科会やミーティングで職員から意見や提案を出してもらい検討し取り組んでいる。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	早出から遅出までの勤務時間で柔軟に対応できるようにローテーションを組んでいる。又、ホームの行事や地域の行事などの時は対応できる体制ができている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階2階の職員は固定化し信頼関係ができている。職員がやむを得ず異動や離職する場合は時間をかけ引継ぎを行い、利用者には不安を与えないように配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会、法人外の研修へ参加する機会は与えられている。なるべく全職員が参加出来る様に交代で受講し、分科会などで研修報告を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム協議会の勉強会や交流会に参加する機会も多く情報交換を行いサービスの向上につなげている。又、地域包括支援センター伊敷の開催による伊敷地区地域ケア会議の意見交換会に参加している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内の親和会による旅行や行事など参加により他職種などとの交流も行われコミュニケーションが図られている。又、昼食後などに一息入れる時間をとり意見を出しやすいようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年1回人事評価（自己評価と上司評価）を行い昇給につなげている。又、全職員が資格取得に対する意欲があり（資格手当あり）法人全体で応援している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に自宅や病院などを訪問し、本人及び家族と面会、本人の困っている事や生活歴、病状、心身状態を把握し受け止め信頼関係をつくり安心して利用できる様に努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時これまでの経緯を聴き、家族の苦労などを受け止め同調し信頼関係をつくれるように努力している。又、ホームでの生活に対する要望なども聴いている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の生活状況や要望を相談時にこまかく聞く努力を行っている。提供できないサービスについては、他のサービス事業所とも連携をはかり支援、情報提供できるように努力している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人、家族にホームを見学してもらい雰囲気などを体験してもらうようにしている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の下ごしらえや縫物、洗濯物たたみなどご利用者のできることを見極め職員と一緒に自立への意欲をもたせている。行事などでは利用者の得意な詩吟や歌など披露してもらっている。又、ベランダのトマトやキュウリなど「肥料が足りないよ」と教えられることがある。	
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで近況報告を行い、行事には家族の参加を呼びかけ利用者と一緒に食事を楽しんでもらっている、参加できない家族には写真とお便りなどで様子を知らせ生活を共有してもらっている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時に近況報告し居室で一緒にお茶を飲み過ごしていただけるように配慮している。又、県外居住の家族の面会時にはベッド横にタタミを敷き宿泊していただき遅くまで話が弾んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会は、ゆっくり過ごしていただける居室や場所を提供し関係が継続するように支援している。又、NPOヘルパーを利用し、習字教室での友達関係も継続できている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員が参加できる行事やレクリエーションなどで仲良く過ごせるよう工夫している。トラブル発生時などはトラブルの原因を知り職員は調整役となり支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先や入所先を訪ね利用者、家族の精神面のフォローを行い関わりを継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の思いや要望の把握に努めている。困難な利用者は家族からの情報を得たり、利用者の表情や動きから読み取り職員間で話し合い取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談で本人、家族から生活歴や利用の経過などを把握し、不足分は家族より情報提供をお願いしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムと出来ることを把握し、料理の盛り付け、縫物や出来ない利用者の洗濯物たたみなどをしてもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から要望を聴きニーズに合ったサービスが提供できるように職員全員で話し合いカンファレンスし介護計画に反映させるようにしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の評価を行い見直しを行っている。状態変化時にはその都度見直し計画を作成している。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、排泄等の心身状況や日々の暮らしの様子など細かく記録している。全職員で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて受診同行や送迎などを行い、協力病院と24時間医療連携体制が整っている。又、共用型通所介護、認可が下り今後開設を検討している。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の派出所や消防署、民生委員などいつでも連絡とれる体制にある。屋内外行事やレクリエーションにボランティアを活用している。地域の小学校とも交流し地域の一員として協働できる体制を構築している。又、鹿大医学部保健学科看護学専攻の実習生の受け入れも行っている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に応じて訪問歯科、NPOヘルパー、訪問理容サービス、美容室などの利用ができる体制ができている。	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	推進会議に地域包括支援センターの参加をお願いし情報交換を行っている。又、地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加し情報交換を行っている。又、利用者に成年後見人制度の必要性が出てきた場合は地域包括センターの協力を得ていく。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療を受けられるように支援している。又、協力病院と医療連携体制をとり急変時には受診可能な体制もできている。	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に専門医師が在駐しており、相談・受診できる体制ができている。利用者の変化時には情報提供・相談し助言や指示を受けている。又、専門医師の来訪もある。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置し毎日の健康チェックを行い、変化時は協力病院へ報告・指示を受けている。又、受診の必要な場合は協力病院との連携もとれる体制が確保されている。	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には情報提供を行い病院との連携を図っている。又、入院中の状態把握を行い、連携調整会に参加し早期退院に向けて情報交換を行っている。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を定め、契約時家族・本人に説明を行っている。家族や本人の希望に配慮し協力病院や職員・家族が対応できるケアについて話し合っている。	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族の意向を踏まえ協力病院と連携を図り、安心して終末期を迎えられるよう取り組んでいる。又、急変時は協力病院との医療連携により24時間体制が確保できている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	個人台帳は鍵のかかる事務所に保管し、職員間の 個人に対する情報交換も事務所内で行っている。 又、言葉かけ失禁時などさりげなく誘導し対応に 気配りしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、 わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	本人の意向を第一に何でも相談しやすい雰囲気作 りや声かけを行っている。意思表示が困難な利用 者に対しては、表情から読み取ったり家族の意向 を取り入れ対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	起床や就寝、日中など本人のペースで過ごせるよ うに柔軟に対応している。又、散歩や買い物など は体調を見ながら支援している。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている	毎月1回、地域の理容師に来てもらいカットの長 さなど本人自身が決めている。美容院希望の利用 者には送迎も行っている。又、必要に応じて家族 に衣類の入れ替えをお願いし、好みの服でおしゃ れを楽しめるように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備時は利用者のできることを手伝って もらっている。利用者が草取りし菜園で収穫した野 菜などを話題にして職員と一緒に食事している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好調査や会話の中から把握し、利用者の嗜好を取り入れた食事、おやつなどを準備している。又、疾患のある利用者については協力病院・家族と相談の上対応している。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄パターンを把握しトイレ誘導している、尿意の無い利用者は食事・お茶の前後など時間を見てトイレ誘導し、失敗時にはさりげなく誘導し他の利用者に分からないように支援している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴を行い清潔維持に努めている。又、2ユニットで交互に入浴日を設定し、いつでも対応できるようにしている。浴槽に浸かる時間も本人の満足度にあわせている。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の睡眠パターンを把握し、不眠がちな利用者は日中散歩やふれあいで皆と過ごすような対応をしている。なかなか寝付けない利用者には好きなテレビを観たり会話できる環境作りをしている。	
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人・家族より情報収集し個々の利用者に参加してもらい感謝の言葉かけを行っている。詩吟など特技を披露する場面作りや習字などの作品は地域の文化祭に展示し喜びが得られている。又、NPOヘルパーを利用し習字教室を継続し生きがいになっている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は本人ができない場合は事務所で預かり、領収書や出納帳で家族に確認印やサインを頂いている。買い物希望時は職員が同行し本人が自分の財布からお金を出すようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調に合わせ、地域公園や短大のキャンパスの散歩に出かけている。買い物帰りにドライブしたり、地域の六月灯など屋外行事にも参加されている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事以外、本人の希望される所へ出かけられるように家族の協力やNPOヘルパーを利用し長時間の外出ができるように支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ダイヤルできる利用者は自分で、出来ない利用者は職員がダイヤルして家族と会話されている。又、携帯電話を持ち家族・友人と気軽に電話されている。毎月、本人と職員で便りを書き近況報告をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に面会しやすい雰囲気づくりを心がけている。面会時間は定めず都合のよい時間に訪問できるように職員はいつも笑顔を心がけている。面会時はお茶を飲みながら、ゆっくり談話できる居室や他の場所を提供している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を定期的に行い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は常に開錠しており、自由に出入りできるようにしている。又、無断外出のある利用者は常に居場所確認を行い外出願望時は散歩などを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	調理しながら廊下や食堂の様子が一目で分かる作りになっており、職員は利用者の行動把握に努めている。夜間帯は巡視と全居室が見通せる廊下ソファで休息をとり安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やはさみ・縫い針など一人ひとりに応じて対応し、使用後の安全管理は職員が行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の共有認識とひやりハット、事故報告を細かく記録し事故を未然に防ぐための工夫と対策に取り組んでいる。本人の状態に合った食事形態や食材などに工夫し誤嚥防止を行い、誤薬防止については本人の名前・日付を確認し、声を出して名前を呼び確認している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普段から利用者の急変時に備え看護師や協力病院との連携を図り、又、マニュアルを見やすい所に貼り緊急時はマニュアルに沿って対応するようにしている。勉強会などで知識技術の習得にも努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回、定期的に防災訓練を実施している（地域への呼びかけ）年2回は消防署からも参加してもらい適切な指導を受けている。災害時の避難場所も決めてある。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時や家族の面会時に心身状態の報告を行い、起こり得るリスクに対し説明し理解してもらっている。日常生活は見守りにより安全な生活が送れるように支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックと入浴時の皮膚観察を行い、異変時は協力病院の指示を受け家族へ連絡を行い早目の対応を行っている。朝夕の申し送りと申し送りノートで全職員で情報を共有している。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の文献ファイルがあり職員はいつでも確認できるようになっている。薬の管理は看護師が行い、薬の変更・追加時は申し送りノートで情報の共有を行っている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便確認、必要時は主治医の指示で下剤服用を行っている。又、腹部マッサージ、食材（繊維のあるもの）選びにも注意し、水分補給や運動などにも配慮している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、見守りや必要な利用者には一部介助している。又、歯科衛生士の資格を持つ職員により指導確認も行っている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食1400カロリー、糖尿食1200カロリーを目安に、水分摂取1000～1500を目標に入浴後、お茶の時間に水分補給に努めている。又、法人の管理栄養士に献立表のアドバイスを受け栄養バランスにも配慮している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルに沿って予防・対策に努め勉強会にも参加している。又、玄関に消毒液を置き、面会者の手指消毒を実施している。毎年、利用者・職員共にインフルエンザ予防接種を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限チェックや調理用具などの消毒、調理前の手洗い・うがいなど全職員が実施している。又、生鮮食品はその都度発注し、肉魚類は当日配達してもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入口とベランダに季節の花やトマト・キュウリを利用者と一緒に植え、玄関には季節の花を飾り家庭的な雰囲気を作り訪問しやすいように努めている。又、建物の一角に家庭菜園があり季節の野菜作りを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾り季節感を楽しんでもらっている。室内は木目調で床張りは衝撃を和らげるクッション感覚に仕上げられ、ぬくもりを感じられる。居室や廊下などの照明は調整できるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや廊下にソファを置き、くつろげる場となっており利用者が談話されている。食堂では本やテレビを観たり思い思いに過ごされている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・整理タンスはホームより準備し、他はそれぞれ利用者の馴染みの椅子、書類棚、習字道具、仏壇など持ち込まれ居心地良い居室になっている。又、家族の写真をボードーに貼り安心して過ごされている。ADLに合わせてベッドやタンスを設置している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状態に合わせて換気や冷暖房の調整ができるように配慮している（外気温と5℃差を目安）。トイレなどの消臭には細かく気配りしている。廊下中央に温度計と湿度計を設置し調整を適切に行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	廊下やトイレ内に転倒予防の手すりを設置されバ リアフリー化も進んでおり安全な住環境になって いる。居室内のベッドやタンスは利用者の動線に 沿って設置し自立できるように工夫している。 又、身体状況に対応できるようにエレベーターも 設置されている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	浴室、トイレは動線上の分かりやすい場所にあり 表示してある。又、居室入口には本人家族の同意 のもと名札や好みの物を目印に付けて分かりやす くし、混乱が生じた場合は職員間で話し合い不安 のない環境作りに努めている。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関入口やベランダに季節の花や、トマト・キュ ウリなどを利用者と共に植え、また、菜園にも季 節の野菜を植え利用者と共に草取りや収穫を行 い、採れた野菜は食卓に並べられる。	

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



## V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	② ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・町内会に加入し地域の一員として、地域の行事や公民館活動などに参加し、自宅生活と変わらない楽しい生活が送れるように支援している。
- ・都市型として市街地に位置し、交通の便がよく家族や知人が訪問しやすい場所にあり、周りには県立短期大学や小学校、銀行、郵便局などがあり環境がよい。
- ・協力病院との医療連携体制により 24時間緊急対応ができる体制が整っている、看護師による健康管理のもと利用者は安心して日々過ごされている。
- ・看護師、介護支援専門員、介護福祉士、社会福祉主事、歯科衛生士、調理師、ヘルパー2級などの職員が協力して健康維持や利用者中心の生活を支援している。
- ・食に対する満足度、入浴による清潔感等がご利用者様に感じてもらえるように職員は常に努力している。
- ・生活空間が狭いので利用者同士や職員とのコミュニケーションがとりやすく、明るく楽しい生活ができています。
- ・日々の生活の中で、食材の買い出しに利用者も一緒にスーパーへ出かけている。
- ・ちぎり絵やぬり絵、足し算引き算、音読、レク体操など利用者と一緒に楽しんでいる。
- ・同法人主催の勉強会・研修会に参加し職員資質向上につなげている。